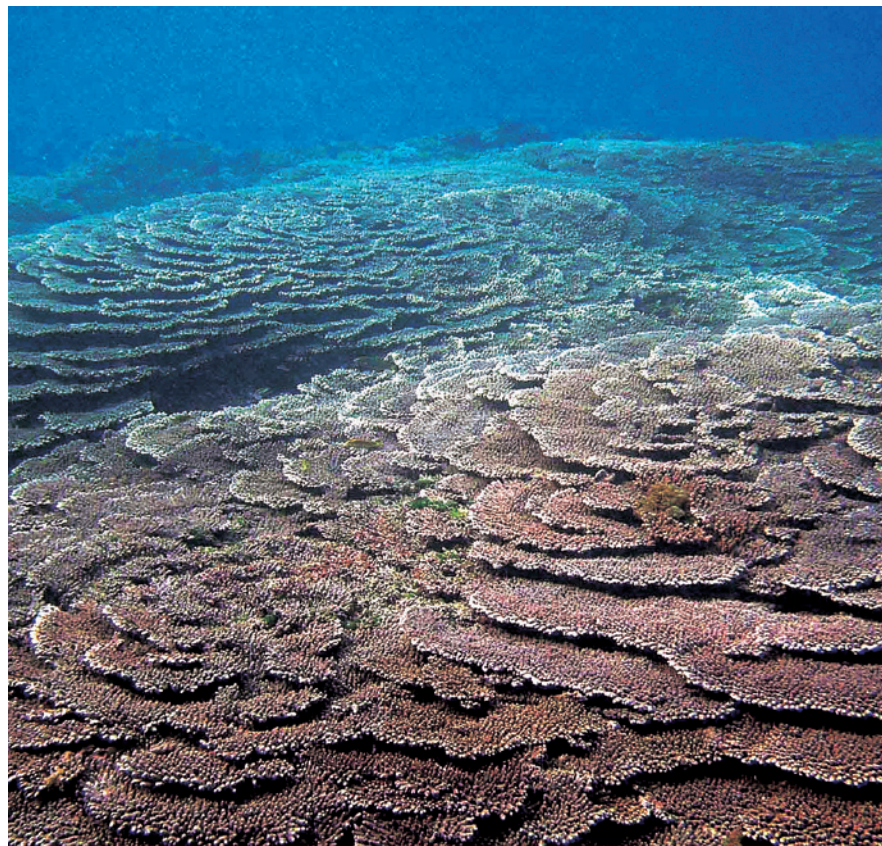


串本沿岸海域

(くしもとえんがんかいいき)

位置：北緯33度28分、東経135度44分／標高：-20~0m／面積：574ha(鏑浦地区355ha、潮岬西岸地区205ha、通夜島地区14ha)／湿地のタイプ：非サンゴ礁域のサンゴ群集／保護の制度：国立公園海域公園地区、普通地域／所在地：和歌山県串本町／登録：2005年11月／国際登録基準：1

湿地のタイプ：サンゴ群集



クシハダミドリイシの純群集



上空から見た串本沿岸海域



海中展望塔と海中遊覧船

湿地の概要：

串本沿岸海域は、本州の最南端、紀伊半島先端の潮岬(しおのみさき)付近の海域である。潮岬周辺の海岸は自然度の高いリアス式地形で、大半が水深20m以下の、浅くて透明度の高い海が広がっている。

この海域は、フィリピン沖から太平洋を北上する暖流「黒潮」が接岸するため、その影響を強く受け、年間の平均海水表面水温が21.1℃と温暖な環境にあり、塩分濃度も年間平均35.0%と高い。こうした環境によって串本沿岸海域は、北緯33度という高緯度にありながらも、造礁サンゴ群集を中心とした熱帯性の生物群集が豊富に見られる特異な地域となっている。

なかでも最も特徴的な生物がサンゴで、約120種のサンゴが美しい海中景観をつくりだしている。

条約湿地として登録されているのは、鏑浦(さびうら)地区、潮岬西岸地区、通夜島(つやじま)地区の三つの海域である。

サンゴ群集：

この海域におけるサンゴの最優占種はクシハダミドリイシで、高い生産力と地

形形成力を持ち、美しいテーブル状サンゴの景観を生みだしている。クシハダミドリイシ群集はこの海域のほぼ全域に分布し、とくに鏑浦地区の浅海域で、高い密度の大規模な純群集を見ることができる。これに次ぐ優占種はクメイシ類サンゴで、そのほかオオナガレハナサンゴなど多くの種が、世界の分布の北限種となっている。

このように串本沿岸海域は、海岸線の自然度が高く、温帯気候の日本の高緯度にありながら、サンゴを始めとする熱帯性の生物群集が形成される、希少な価値をもつ重要な海域である。

海中観察：

串本沿岸海域一帯は吉野熊野国立公園海域公園地区に指定されており、沖合い140m、海底6.3mの海中展望塔からは、サンゴの海を目の前で観賞できる。海中遊覧船で船底から海中を楽しむこともできる。周辺には、ダイビングスポットが多数ある。

【オオナガレハナサンゴ】串本沿岸海域以外での出現はきわめて稀であり、国内では希少種。本来はインド・西太平洋のサンゴ礁に分布する熱帯種である。通夜



串本沿岸海域の全景

島地区で高密度にまとまって見られ、ここが国内最大の群生地となっている。

●関係自治体

串本町役場 Tel: 0735-62-0555

